

みなくち 子どもの森

7月の自然

大型のトンボ～ヤンマ～



ギンヤンマ羽化

身近な美しいトンボを観察することで、水環境の大切さに気付きたいですね。

皆さんは、大型のトンボ「ヤンマ」をつかまえたことがありますか？ 緑や青の光沢をした大きな眼や、美しい体の斑紋、手に伝わる力強い羽ばたきには思わず感動します。

【ギンヤンマ】は、甲賀市の池や沼で最も普通に見られるヤンマです。成虫は5月から9月頃に現れ、黄緑色と水色の斑紋が美しい大型のトンボ（全長7～8cmほど）です。雄は、池や沼になわばりを持ち、同じ種の雄や別の種類のトンボまで追い出そうとします。

【オニヤンマ】は、甲賀市の中でも少し山よりに棲んでいます。幼虫がきれいな冷たい水の小川や水溜りにいるためです。成虫は7月から9月頃に見られ、黒地に黄色のシマ模様、鮮やかな日本でも最も大きなトンボ（全長10～11cmほど）です。雄は、谷や小川にそって同じコースをパトロール飛行します。

これら2種類は、よく見られる種類ですが、水草の多い池や湿地が少なくなり、甲賀地域で絶滅しそうなトンボもいます。



オニヤンマ

みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 FAX 63-0466

7月の
休園日

4(月)、11(月)、12(火)、
19(火)、25(月)。12日は
展示換えのため臨時休園
です。



ギンヤンマ産卵(右がオス、左がメス)

ギンヤンマ顔

日本脳炎ワクチン

予防接種の中止について

6月15日号「おしらせこうか」に掲載しましたが、日本脳炎ワクチン予防接種の中止について、詳しくお知らせします。

中止になった理由

5月30日に厚生労働省から「日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨の差し控えについて」の勧告が発令されました。これは、現行の日本脳炎ワクチンと重症の急性散在性脳髄膜炎との因果関係が認められ、接種の積極的な勧奨を控えなさいというものです。これに伴い、市においてもより慎重を期するため、現行の日本脳炎ワクチン接種を当面の間、中止としました。

接種を中止した場合の感染について

日本脳炎は、人から人への感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが繁殖された後、そのブタを刺したコガタアカイエカが人を刺すことによって感染します。

感染源は日本脳炎ウイルスを媒介する蚊ですが、媒介した蚊に刺されたからといって必ずしも発病するものでもありません。また、患者数は、1970年代以降著しく減少しており、その理由としては、予防接種の普及や環境改善による蚊に刺される機会の減少、ウイルスを持つ蚊の減少など、複数の要因の結果と考えられています。そのため国内の多くの地域では、予防接種を行わ

なくても直ちに流行する機会は著しく減少していると考えられます。これらのことから、本年予防接種を受けるべき年齢の人が予防接種を受けなくても日本脳炎に感染し発症する機会はまれであると考えられます。

しかし、一般的な注意として、戸外へ出かけるときには、念のためにできる限り長袖、長ズボン、長靴を身につけるなど、蚊に刺されないよう注意することをお勧めします。

今後の予防接種について

流行地域(朝鮮半島、台湾、中国、ベトナムなど)へ渡航する場合など日本脳炎に感染する恐れが高い場合は、今回の措置並びに日本脳炎ワクチンの効果及び副作用を医師から説明を受け、同意書に署名した上で、現行のワクチンを接種できます。詳細については、左記までお問い合わせください。

今後、国の指導に基づき再開する場合は、広報等でお知らせします。

【問い合わせ】

健康推進課 母子保健係

☎ 65-0704
FAX 63-4591